

名前 へ

」

宵^{よい}うち過^すぎて、子^ねの時^{とき}ばかりに、家^{いえ}のあたり、昼^{ひる}の明^あかさにも
 過^すぎて、光^{ひか}りたり。望^{もちづき}月の明^あかさを十^{とう}合せたるばかりにて、ある
 人^{ひと}の毛^けの孔^{あな}さへ見^みゆるほどなり。大^{おお}空^{ぞら}より、人^{ひと}、雲^{くも}に乘^のりて降^おり
 来^きて、土^{つち}より五^ご尺^{しゃく}ばかり上^あがりたるほどに、立^たち列^{つら}ねたり。これ
 を見^みて、内^{うち}外^となる人^{ひと}の心^{こころ}ども、物^{もの}におそはるるやうにて、会^あひ
 戦^{たたか}はむ心^ワもなかりけり。ヨ
 あい

からうじて思^{おも}ひ起^いおこして、弓^{ゆみ}矢^やを取^とり立^たておとすれども、手^てに力^{ちから}も
 なくなりて、萎^なえかかりたり。中^{なか}に心^{こころ}さかしき者^{もの}、念^{ねん}じて射^いむと
 すれども、外^{ほか}ざまへ行^いきければ、荒^あれも戦^{たたか}はで、心^{こころ}地^ちただ痴^しれに
 痴^しれて、まもりあへり。エ

立^たてる人^{ひと}どもは、装^{そう}束^{ぞく}のきよらなること、物^{もの}にも似^にず。飛^とぶ
 車^{くるま}一つ具^ぐしたり。羅^ら蓋^{がい}さしたり。